

みどりの東北

Midori no Tohoku

vol. 93

東北森林管理局



八甲田山の毛無岱の高層湿原（八甲田ロープウェー（株）提供）（関連記事は9P）

contents

「間伐の低コスト化に向けた取組」

—— 特集 | 販売課

「『銅山川地区地すべり防止工事見学会』を開催」

—— 美しい森林づくり | 山形森林管理署最上支署

「摩耶山（埋蔵金伝説の山）」

—— 我が署の名所 | 庄内森林管理署



2011・国際森林年



間伐の低コスト化に向けた取組

販売課

間伐のトータルコスト縮減に向けた「低コスト化」の取り組みは、平成17年度から現地検討会を開催しており本年で8年目を迎えました。

この取り組みの一つとして、これまで、路網整備を進めてきたところですが、昨年度に森林作業のため林業機械が作業・走行する道については、継続的に利用する「森林作業道」として位置づけられました。

（青森県）、仙台署（宮城県）の協力を得て開催しています。



津軽署：森林作業道の丸太組工

を見ると、間伐箇所の団地化・路網整備・列状間伐・高性能林業機械の導入状況等着実に成果を上げていますが、これらの成果に対して労働生産性が向上していない状況になっており、労働生産性向上のための作業システム現地検討会を実施しています。

このほか、多くの署でも森林作業道の作設方法の普及・定着や低コスト化に向けた現地検討会や勉強会が行われています。

「森林・林業再生プラン」では施業集約化、路網整備、人材育成を柱として、今後10年間を目標に木材自給率50

%以上を目指すことにしており、その達成に向け素材生産、特に間伐におけるコストの縮減が重要な課題です。



仙台署：現地検討会の開会

コスト縮減には高性能林業機械の性能を最大限に発揮させることを中心とした労働生産性の向上が不可欠であり、合理的に配置された路網と、素材生産の工程全体を通じて生産性が高まるような人員や林業機械の配置による低コスト作業システムを構築することが重要となっており、今後も各署と連携しながら取り組んで行くこととしています。

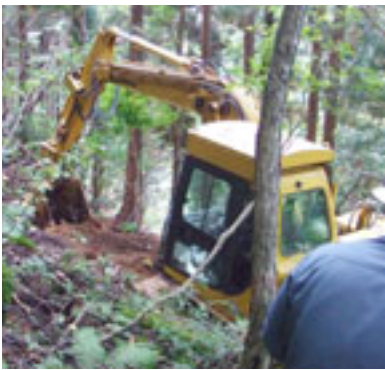


津軽署：ハーベスタによる作業

このため、今年度は「森林作業道作設指針」等に基づく作設方法の普及・定着と併せ労働生産性の向上を軸に、県単位の現地検討会を津軽署

特に、森林作業道の作設で注意する事項として、傾斜や使用する林業機械にもよりますが幅員は3m以内とすること、縦断勾配は概ね8%（10度）程度以下とすること、盛土処理について強固な路体を作設するために基礎部を掘削整地し概ね30cm程度の層ごとにバケット背面及び覆帯で締め固めながら積み上げることなどであり、その重要性を確認しています。

また、これまでの生産事業の結果



津軽署：森林作業道作設



みどりの東北



「銅山川地区地すべり防止工事」 見学会を開催

—— 山形森林管理署 最上支署

当支署では、地域発案システムの一環として、治山事業を地域住民の方々に広くPRし、理解を深めていただくことを目的に2回の見学会を開催しましたので紹介します。

見学会は山形県大蔵村の「銅山川地区民有林直轄地すべり防止事業」施工地内において実施しました。山形県が昭和27年より地すべり対策に着手していましたが、地すべり防止区域指定の規模の拡大、高度な技術の必要性から、山形県・大蔵村等の要請により、平成4年から平成30年までの計画で、国有林主体により様々な工種を用いて対策工事に取り組んでいる箇所です。

第1回は8月29日(月)に大蔵小学校6年生25名、第2回は10月1日(土)に一般募集の15名の参加者を対象に行いました。見学会に当たり、杉崎支署長から「森林は生活に欠かせない様々な恵みをもたらしています。私達はこの森林を次世代に引き繋ぐべく色々な事業に取り組んでいます。今日は安全で有意義な見学会になるよう期待しています。」と

挨拶がありました。概要説明の後、トンネル工事班・地すべり滑落崖等地上部班の2班に分かれ交代で見学しました。トンネル内の子供達は日常乗ることのないトロッコと暗い坑内の緊張感からか無邪気にはしゃいでいましたが、大規模な地すべり断面等の説明では真剣な面持ちで聞いていました。一般の参加者からは「普段見ることのない工事と自然の驚異、又、たくさんの予算支出に驚きました。」と感想があり、終了後には両見学会とも「貴重な体験と親



大蔵小学校記念撮影

切丁寧な説明ありがとうございました。」と感謝の言葉が聞かれ無事終了しました。
今年はこの見学会以外にも遠方の工業高校や地元住民の見学、又、日本でも有数の地すべり地帯の工事として、海外の地すべり研究者の視察なども行われました。
今後も見学会を継続し、自然景観との調和に配慮し、人々が安全・安心に暮らせる環境を守る治山事業を、多くの方々に積極的にPRしていきたいと考えています。



海外地すべり研究者への説明



東日本大震災により被害に遭われた市民の方々や児童などへ、植樹祭や森林教室、森林ふれあい事業などを通じて、津波被害を軽減した森林の重要性などを認識してもらおうと共に、フイトンチッドやマイナスイオンなど、森林浴によるリラックス効果により少しでもリフレッシュして頂くための、ソフト事業を数多く行っています。

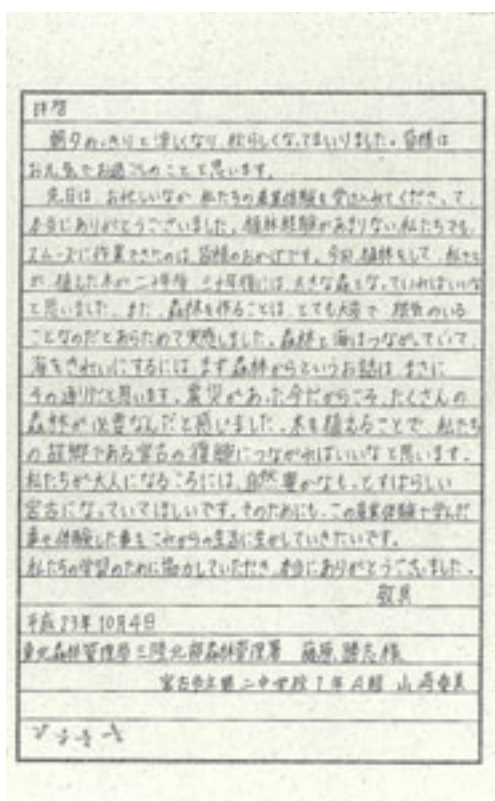
宮古湾復興祈願植樹祭

三陸北部森林管理署



三陸沿岸地域に甚大な被害を及ぼした東日本大震災から、早や半年が過ぎ、日夜懸命な復興作業が行われ、

復興の兆しが日増しに感じられるようになりました。
宮古市の市立第二中学校の1年生は、総合学習の時間を通じ、古里の復興につながる「宮古復興プロジェクト」に取り組んでいます。生徒たちは、この取り組みの過程で、県の復興計画を学習したほか、津波被害を軽減



生徒さんからのお礼状の一部



各地からの
便り



古里復興への取組「宮古湾復興植樹祭」を終えて

した森林の重要性を再認識し森林づくりを行うこととしました。

地域の要望を踏まえ、当署では10月3日(月)「宮古湾復興祈願植樹祭」を開催しました。当日は秋晴れの下、同校1年生58名と教諭4名ほか、地域住民22名が参加し、津波で壊滅的な被害を受けた宮古市津軽石の上流に位置する伐採跡地にポット苗のトチノキ1000本を、宮古市の

復興と旺盛な生長を祈願しながら一本一本丁寧に植えました。

本植樹祭は、当初、9月20日に行うこととしていたところ、台風15号の影響により今年度は中止を考えましたが、生徒たちの強い意志により実施することができました。

岩手県宮古市は、現実的には未だ不自由な生活をしている方も多く、復興までの道のりはほど遠い感があるかもしれませんが、職員は本植樹祭で生徒たちと接することができ、改めて「自分自身が今何をすべきか、何をすることができているのか。」を考えさせられる一日となりました。

被災地域の児童を対象とした森林教室の開催

宮城北部森林管理署



10月5日(水)、宮城県石巻市谷川浜地区の国有林において、石巻市立大原小学校3・4年生の児童を対象に森林教室を開催しました。

大原小学校の所在する石巻市大原浜地区は、3月11日に発生した東日本大震災の津波による人的被害は少なかったものの、家屋等の大半が流失し甚大な被害を被っており、学区内の児童の減少、仮設住宅から通



みどりの東北



職員からの説明を聞く参加児童

学する児童もいるなど、森林教室の開催自体も危ぶまれておりましたが、学校側から達々の依頼があり、今回開催する運びとなりました。

当日は天候にも恵まれ絶好の森林教室日となりました。参加した児童7名のほか教諭2名も当署職員の説明を熱心に聞き、植樹体験・手鋸による間伐体験・クラフト作り(壁飾り作成)などに取り組んでいました。

児童の中には、初めて使う唐鋸や鋸の使用に戸惑いながらも職員の助



植樹方法の説明を聞く参加児童

10月4日(火)、滝沢村立一本木小学校5年生を対象に森林教室を行いました。この森林教室は、一本木小

盛岡森林管理署

森林教室で治山ダム見学と
間伐体験を実施



間伐作業に悪戦苦闘する参加児童

言のもと一生懸命に作業を行いました。

また、児童からの質問に当署職員が悪戦苦闘する場面もありました。

森林教室終了後、大原小学校長から、子供達に楽しい一時の企画と、さらに現地までの交通手段の確保等にも協力を頂き感謝申し上げる旨の言葉を頂きました。

当署では、今後とも次代を担う児童生徒を対象に森林環境教育に取り組んで行くとともに、小規模ながら植樹活動を通じて震災復興のための一助になればと考えております。



児童手作りの新聞の一部



間伐をする児童



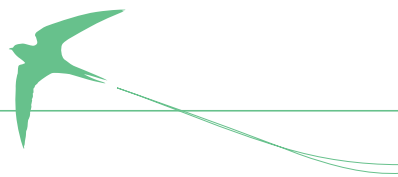
治山工事現場の見学

学校からの要請を受け毎年行われているもので、今年で11回目。当日はうっすら雪化粧した岩手山を仰ぎ見ることができ、絶好の森林教室日和となりました。

午前中は御神坂沢治山工事現場にて森林の役割や治山事業等についての説明を行い、既設の治山ダムや施工中の現場を見学。また、工事で実際に使用しているパワートリッパの

乗車体験も行い、児童からは「運転台が高くて緊張したけれど楽しかった。」「ダムを作るのは大変だと思った。」などの声が聞かれました。

午後は間伐体験を実施。間伐の目的と作業方法についての説明の後、悪戦苦闘をしながらも一人一人が「懸命にのこぎりを使って間伐を行いました。児童たちは、今回の森林教室を通じて、森林を身近に感じるとともに、



治山事業や森林整備の重要性を学び、秋の良い思い出になったことと思います。その後、学校から児童たちの手作りの新聞が届けられました。

「持続可能な森林づくり研修会」の開催について

仙台森林管理署



10月12日(水)、宮城南部・宮城北部の流域森林・林業活性化センターとの共催のもと、当署管内において本研修会を川崎町で開催しました。

当日は、秋晴れの中、約100名近い参加者が集まりました。また、川崎町長からご祝辞をいただくとともに本研修会にご参加いただきました。

午前中は、川崎町山村開発センターにおいて、局飯島計画課長による「森林共同施業団地について」、局販売課細田企画官による「森林作業道に



梅津活性化センター会長の挨拶



講演を聞く参加者

ついて」の講演をいただき、午後は小屋沢山国有林において、現地検討会を実施しました。

「森林・林業再生プラン」における民有林と国有林の連携を積極的に推進するための「森林共同施業団地」、より効率的かつ安定的な林業経営を実現するための基礎となる「森林作業道」について、わかりやすく講義していただきました。

また、現地での検討会においては、細田企画官及び当署河津業務課長



河津業務課長による現地説明

から、従来の作業道と新たな森林作業道についての違い、作設にあたっての注意点や壊れにくい作業道づくりについて、具体的にご指導をいただきました。

今後、林業の低コスト化を図るうえで、民有林・国有林の連携と森林路網の整備が重要な課題であり、持続可能な森林づくりに役立つことでしょう。

桃洞渓谷の鮮やかな紅葉

〜森林ガイド事業〜

米代東部森林管理署上小阿仁支署



6月に次ぐ今年度2回目となる

森林ガイド事業「秋の桃洞渓谷と温泉浴」を10月12日(水)に開催しま



鮮やかな紅葉の中を散策する参加者たち

した。大仙市や能代市等、秋田県内各地から14名の参加があり、当日は好天にも恵まれ絶好の散策日和とな

りました。また、木々の紅葉も鮮やかに色付いており桃洞滝とのコントラストもすばらしく、参加者はその美しい



桃洞滝の前で記念撮影

風景をカメラに納めたり、散策の道中では樹木やキノコの名前、森林の役割等について支署職員の説明を聞きながら森林浴を楽しんでいました。

森林の鮮やかな彩りと桃洞渓谷の桃洞滝を満喫した後は、秋田内陸線の阿仁前田駅内にあるクウインズ森吉で温泉浴を楽しんで頂きました。参加者からは「すばらしい紅葉に出会えて大満足です。」「次回の企画も楽しみにしています。」などの感想が寄せられました。

今後も参加者に喜んでいただける企画を練っていききたいと思います。

「まぼろしの滝・与蔵の森探検ツアー」に参加して

山形森林管理署最上支署





みどりの東北

鮭川村観光協会主催の「まぼろしの滝・与蔵の森探検ツアー」は、平成6年から始まり、今年で18回目を数えます。トレッキングを通じてまぼろしの滝・与蔵の森エリアの大自然に親しみ、その魅力と可能性を参加者全員で探るもので、新緑の6月に開催され毎年1000人も参加する大規模なイベントとな



「トロの木」の前で記念撮影

っています。幻想的なブナ林の中を探究しながら歩く山道は時には険しく時には穏やかに気分をリフレッシュしてくれます。

一人の村民の50年も前の少年の頃のおぼろげな記憶をたどり、まぼろしの滝を求めて村の調査隊が与蔵の森に足を踏み入れ、存在を確認したのは平成5年です。地元の人も知らなかった地図上にない滝として発見された滝群の名前は、「大滝」「白猿の滝」「夫婦滝」「湯沢の滝」の4つで、

特に「湯沢の滝」は落差130mの迫力のある滝となっています。

下山後は、当支署スタッフによる「森のクイズ大会」で参加者をさらに和ませ、最後は「トトロの木」と命名されたご神木を鑑賞し、全員で記念撮影をします。

終点は羽根沢温泉ですから、登山の疲れを温泉で流す人など聞いて、「来年またお会いしましょう。」を合言葉に、それぞれ帰路に着くのが恒例のようです。

青森工業高校で自然災害の復旧に関する講義を実施
治山課

生徒の専門的かつ高度な資格取得による進学・就職力向上を目的とした専門家による講習会等「未来スペシャリスト育成プロジェクト」が11月14日(月)、青森工業高校で行われ、都市環境科・建築科生徒70名に対し東北森林管理局治山課長が講義を行いました。

この講習会は進路学習の一環として今年度から行われているもので、今回の講義では、我が国の森林の状況とその機能、平成20年岩手・宮城内陸地震災害の復旧対策、東北地方太

平洋沖地震による被害等、生徒がなかなか接する機会がない森林・林業の役割、自然災害の発生と復旧に関する知識の向上に役立つような内容を用意しました。

およそ90分の講義では、東北地方の特徴的な地形・地質により多様な山地災害が発生することや、航空機による地すべり調査、地震・津波による被害状況などについて、図や写真を用いて分かりやすい説明に心掛けました。

生徒からは、「森林官はどんな仕事をしているのですか。」「岩手・宮城内陸地震と3・11の東日本大震災の違いは何ですか。また、日頃自然災害に対して各省庁とどういう打合せを行うのですか。」「高山植物や貴重な野鳥などを捕獲して、はく製などに行っているようですが、どのように対応しているのですか。また、取った



講義の状況1

らどのような罪になるのですか。」という質問があり、東北森林管理局の仕事や自然災害の復旧に関して興味を持ってくれたと感じました。講義の後、都市環境科長の工藤先生と意見交換を行い、先生からは、「森・川・海のつながりを認識させ、地域の環境に対する生徒の意識を高めていきたい。」「森林管理局で高校生を受け入れる体験イベントやインターンシップがあれば是非参加したい。」などの意見がだされました。今回の講義は、森林・林業の役割や自然災害の復旧といった東北森林管理局の取組をPRする良い機会となりました。しかし、高校生のための講義が初めてということで、専門的な用語を極力使わずに説明に心掛けたものの、伝える立場としてもっと勉強しなければと実感しました。



講義の状況2

心潤す五葉山麓森林浴公園

岩手県住田町

千葉修悦

Chiba Syuetsu



「みすゞ亭」に集う仲間たち。左端が筆者。
(2010年11月5日撮影)

岩の上にぐっと根を張って林立するヒノキアスナロ。樹齢豊かな林。静けさと樹間に射し込む光。大きな岩の間を縫うように流れる清水とその水音。冷涼な空気。三陸沿岸の最高峰五葉山の西側斜面、約800mの高さに位置する五葉山麓森林浴公園の表情だ。

さまざまな人たちがここを訪れる。住田町立有住小学校の「自然観察会」では児童たち、岩手県立住田高等学校の「五葉山森林公園森林浴」では生徒たち、三陸中部森林管理署や五葉山自然倶楽部が行う森林散策では小さい子から大人まで参加する。

国際森林年の今年、7月26日には、三陸中部森林管理署、住田町、五葉山自然倶楽部が一体となって案内板や樹名板の設置、倒木の除去、森林浴道の整備を行った。初めての試みであったが、お互いの交流を深めることが出来た。

会話を弾ませ、くつろがせ、素直に、明るくさせるこの五葉山

麓森林浴公園は、悲しみや苦しみをも受け止めてくれる。

今年の6月5日。五葉山自然倶楽部が開催した「五葉山の山麓散策」に、大船渡市から参加した70代の男性は次のように話した。「あの震災で親族が亡くなり、やっと先日葬儀を済ませました。心の区切りをつけるために参加しましたが、おかげさまで気持ちを整理することが出来ました。」晴れ晴れとした表情だった。

また、秋の深まった10月23日には三陸中部森林管理署が五葉山麓「秋の森林散策」を開催。被災し窮屈な思いをしながら仮設住宅に住んでいる人たちにも笑いや弾んだ声があった。明るく、ゆったりとくつろいだ時間を過ごしていたのが印象的だった。

昨年の11月5日、私は、金子みすゞの詩を読み合う「みすゞ亭」に集う仲間たちをこの森に案内した。見事な紅葉が秋の日に映えたブナの広場で、お気に入りの木に寄り添い、澄んだ心、まっすぐな気持ちで詩と向き合う。あの日の明るく和んだ表情を思い出す。東日本大震災で逝ってしまった吉田さん、村上さん。詩の朗読にも抑制された美しさを漂わせるお二人。謙虚で誠実な姿が私の中に生きている。

喜びや悲しみ、人びとの思いのすべてを包み込んでくれる五葉山麓森林浴公園。そんな懐の深さに私は誘われる。

国民共有の財産

青森森林管理署 八甲田森林事務所

藤原祐哉

Hujiwara Yuuya

私の勤務する八甲田森林事務所は八甲田山系北側ふもとに位置しており、当事務所管内はブナを主とする広葉樹林とアオモリドマツ林からなっています。地形は八甲田大岳(1,585m)、高田大岳(1,552m)などの高峯が連なる山岳地帯であり、火山地帯特有の温泉水湧出地や多くの湿原といった特徴が見られます。ミヤマキンバイやチ



ミヤマキンバイ

ングルマといった高山植物が見られ、ロープウェイで気楽に観光でき四季を通じて楽しむことができます。

また、全国的に有名になっている酸ヶ湯温泉「千人風呂」は季節を問わず、登山者やスキーヤーの癒しの場として古くから湯治客を迎えてい

ます。近年は、新幹線効果もあり外国人観光客も多くなっているとか。そのほか野湯として下湯ダム上流に下湯温泉(たねきの湯)があり、川沿いの露天風呂で新緑や紅葉を眺めながらの入浴は格別のものがあります。

多くの人が訪れる当地域ですが、登山道にはゴミはほとんど落ちておらず登山者のマナーの良さに驚きました。しかし残念なことに国道や県道沿いには国有林・民有林とも不法投棄がたえず、人目につく場所にも投棄され観光客の残念がる声を聞くこともありました。パトロールやゴミの撤去を行っています。このような状況ですが、青森市や地元のボランティア団体の協力を得て改善に努めています。

過去に比べればゴミの投棄件数は少なくなってきていると聞きました。これは、諸先輩方の活動の積み重ねによるものと思われま

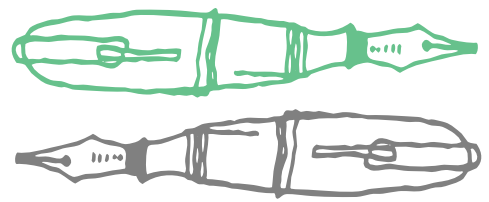
す。八甲田山系は貴重な観光資源であり、一部は青森市の重要な水源地域で何物にも代え難い国民の財産です。私も国民の財産を守るものの一員として微力ながら職務に取り組んでいきたいと考えます。



県道沿いクリーン作戦



紅葉の下毛無袋の池塘群



森林官からの手紙

庄内森林管理署

〒997-0015 山形県鶴岡市末広町23-37

tel.0235-22-3331 fax.0235-22-3333

【我が署の名所⑨】
山形県鶴岡市
「摩耶山」

まやさん

「摩耶山（埋蔵金伝説の山）」



摩

耶山は朝日連峰の大鳥屋岳から金峰山に連なる枝尾根の中心に位置する標高1019mの山です。

その昔、須佐之男命が竜馬で登ったことから厩山と呼ばれたと言われ、越後と出羽の国を分けた都岐沙羅柵の守護神として崇拝されてきました。

平安初期に真言宗派の霊場となり摩耶山と改名され山岳修験も隆盛をきわめました。江戸時代に入ると庄内藩の防備の要所として山止めされたため衰退したと伝えられています。

この摩耶山には埋蔵金にまつわる伝説が残っていて、羽黒山の抗争から逃げた最高位

の山伏が莫大な財宝を隠して、埋蔵場所を「朝日さす夕日輝くごろごろ石のその下に」と歌に託して遺言したと伝えられています。（あつみ観光協会パンフ引用）

果たして本当に財宝は眠っているのかは判りませんがロマンを感じさせる伝説です。

登山口は鶴岡市の温海地区（越沢口）と朝日地区（倉沢口）の二カ所で、日本海の季節風の影響を受けた植生や地形となっています。

越沢口は最初はなだらかな登りですが途中から二手に別れ、初級者コースと滝登りや急傾斜を直登する中級者以上のコースです。

倉沢口からは岩肌の露出した急峻な尾根を登りますが、高度が上がる程に眺望が増し

ます。どちらかと言うと中級者以上の健脚コースに入ります。

山腹の西側（温海側）はブナの原生林に覆われているので、植生は安定しておりますが、東側（朝日側）は偏東積雪現象により急峻な地形になっているため植物の定着が不安定なことから、岩場に張り付くように可憐な山野草が見られます。

頂上からは、晴れた日には佐渡ヶ島、朝日連峰、月山、鳥海山、男鹿半島などを遠望できるところから最近では山ガール達にも人気が高く、秋にはカラフルなファッションに身を包んだ彼女達が紅葉に負けじと山を賑わしています。



幾重にも山頂が重なって見えますが、頂上は矢印部分です



この山のどこかに、埋蔵金が眠っている!?



●交通アクセス

JR羽越本線鼠ヶ関駅から摩耶山登山口（越沢口）まで車で約30分

朝日地区落合から摩耶山登山口（倉沢口）まで車で約30分

●東北森林管理局のホームページをご覧ください

www.rinya.maff.go.jp/tohoku/

みどりの東北 第93号 | 発行月●平成23年12月

発行●東北森林管理局 秋田市中通5丁目9-16 tel.018-836-2192



東北森林管理局では、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。